

全日本空輸株式会社所属
ボーイング式727-200型JA8347
に関する航空事故報告書

昭和53年12月14日
航空事故調査委員会議決（空委第42号）

委員長	岡田 實
委員	山口 真弘
委員	諏訪 勝義
委員	上山 忠夫
委員	八田 桂三

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

全日本空輸株式会社所属ボーイング式727-200型JA8347が昭和53年11月5日同社の定期521便として大阪国際空港を離陸し熊本空港へ向け飛行中、旅客1名（男性、55才）が病死した。

1.2 航空事故調査の概要

昭和53年11月6日 事実調査

2 認定した事実及び認定した理由

JA8347は、11月5日旅客75名（幼児1名を含む）乗組員7名（運航乗務員3名、客室乗務員4名）がとう乗し、07時10分大阪国際空港を離陸し、巡航高度20,000フィートで熊本空港に向け飛行し、08時02分同空港に着陸した。

同機が到着後08時07分ごろ、降機中の旅客から客室乗務員に眠っている旅客がいるとの連絡があり、当該旅客の異常に気がついた同客室乗務員はその旨を機長に連絡するとともに、

222001

直ちに救急車の手配を行い、救急車が到着するまで旅客中の看護婦により心臓マッサージ及び酸素吸入が行われた。

08時24分ごろ救急車が到着し、当該旅客は熊本理学診療科病院に収容された。

熊本理学診療科病院医師の死体検案書によれば、死亡の時刻は07時40分ごろ（山口県室津半島上空）（推定）で、死因は心筋梗塞の疑いであった。

当該飛行は気流も良好で、客室内与圧の急減等の異常もなく正常な飛行であった。

また、当該旅客は傷病を申し出ることなくとう乗しており、また、事故発生前に客室乗務員あるいは他の旅客に身体の異常についての訴えもなかった。

07時35分ごろ、客室乗務員が当該旅客に紅茶のサービスを行っており、その後眠っている状態であったので異常に気がついた者はいなかった。

原因

本事故は、航空機にとう乗中の旅客が「心筋梗塞の疑い」により死亡したものと認められる。

222002